

服装学院に併設した大学 専門大学出身者を呼べる力

対談
リレー

海軍兵学校から人事院そして文化学園理事長へ
GHQの置き土産、70年の歴史の書き直し
世界が認めるファッションの学府
織と染の技術が明治政府の原動力
徒弟制度ではない学校での教育

大沼 淳^氏
文化学園大学学長

1928年長野県生まれ。海軍兵学校修了、人事院勤務の後、1957年文化学園常任理事、1960年同理事長就任。1969年より文化女子大学（現・文化学園大学）学長。

文部省大学設置審議会委員、同私立大学審議会委員、臨時教育審議会委員、全国専修学校各種学校総連合会会長などを歴任。2000年より日本私立大学協会会長（5期目）、他に一般財団法人日本ファッション教育振興協会理事長、ファッションビジネス学会会長。

藍綬褒章（1984年）、功績勲章勲二等（2002年、ルーマニア政府）、勲二等瑞寶章（2003年）、飯山市名誉市民章（2004年）、渋谷区名誉区民章（2009年）受章。

教育界での地位向上のために ファッションで世界中から一流の

麻生 太郎^氏

副総理・財務大臣・金融担当大臣

女性が活躍する学校の地位の向上に
留学生を受け入れる経営手腕
授業は日本語、そして世界へ羽ばたいて
私学の役割を理解すれば
国費の有効な使い道が見えて来る
政権が安定すれば国家が安定する
だから政策に継続性があるって
経済もうまくいく……

1940年福岡県生まれ。1963年学習院大学政経学部卒業。麻生セメント株式会社代表取締役社長、社団法人日本青年会議所会頭を経て、1979年衆議院議員に当選。

以降、当選12回。1996年、国務大臣経済企画庁長官、2001年、国務大臣経済財政政策担当、自由民主党政務調査会長、2003年、総務大臣、2005年、外務大臣、2007年、自由民主党幹事長をそれぞれ歴任し、2008年、第92代内閣総理大臣に就任。2012年より副総理・財務大臣・金融担当大臣（現職）。

趣味は読書とゴルフ。クレイ射撃では1976年、モンテリオール五輪に日本代表として出場。



大沼 淳氏

戦後、復興期は

役人として文部省を担当

麻生 文化学園の理事長、大沼 淳さんをご指名させて頂きました。文化学園は、日本のフアッションを牽引してきた学校で、現在は文化学園大学、文化フアッション大学院大学、文化服装学院と、さまざまな形で教育を拡大し続けておられます。今日は宜しく願います。

大沼 こちらこそ宜しくお願いします。

麻生 文化学園のルーツとなる洋裁学校のスタートから約100年、このビルは20年

程前、80周年記念の時に建設されたんですね。これまでに40万人から45万人の卒業生がいて、コシノジュンコさんを始め、優秀な人材を輩出しておられます。アジアを中心に、世界各国からの留学生も受け入れているフアッションの大学院大学で、素晴らしいと思うポイントが2つあります。現在と違って若い人が増えていた時代に大学にしたという事。今の時代に合っているのは、海外からの留学生を受け入れている事。これが経営的に見ても、「時代」というものを見ても、大沼さんの凄いなと思うと思いますね。

大沼 いいえ、私はただ、自分の運命に従っ

て、その時々を生き抜いて来ただけで、結果がよかったから運がよかったのかなと思っています。ですから、戦時中は軍人になり、戦後、公務員になって、60年前に並木学園と言っていた私学に天職を見つけただけだと思います。

麻生 軍隊に行つて、役人になって、それから教育に携わるようになったんですね。

大沼 ええ、昭和19（1944）年に、広島県の江田島にあった海軍兵学校の76期生として入校し、2年生の時、終戦になって学校は閉校になりました。それから3年後の昭和24（1949）年、第1回国家公務員試験に合格して、その時GHQの指令で誕生した人事院に思いもよらず採用されました。インフレーションの激しい時代でしたので、新給与実施本部が人事院に移行され各省担当官が選ばれて、私は文部担当官になり、戦後の教員公務員の給与制度を作成する責任者として文部省はじめ、教育関係団体と交流を持つことになったのです。

麻生 昭和23（1948）年に公務員試験が始まって、翌昭和24年に人事院に入るまでの4年間は学生ですか？

大沼 そうです。昭和21（1946）年に、できれば東京の学校へと思つて上京したのですが、東京は焼け野原で私が住むところはありませんでした。その時、茨城県の水

戸近郊に、農林省の一体が新農村を築く指導者養成のための「高等農事講習所」という3年制の学校を創立したことを知りました。そこは授業料なし、全寮制で食費も寮費も総て無料でしたので、同じような境遇の人がどっと押し寄せました。これも幸運なことに合格し、そこでゆっくり農業中心に高等教育を受けました。この教育は素晴らしく、小出満二学園長（前東京農林専門学校校長）に多くのものを学び、その後の人生の糧になりました。

麻生 そうですか。

大沼 人事院に入った昭和24年は、新憲法に基づいて衆参両議院の選挙が行なわれて、その後日本を支えた文教行政を構築した議員の先生方が多く登場しました。田中角栄さん、川島正次郎さん、坂田道太さん、赤城宗徳さん、西岡武夫さん、竹尾式さんなど、限りがありませんが、ここから日本が本格的な活動ができるようになったと思います。それから昭和24年には、60万の教職員を抱えた日本教職員組合が、岡三郎さんを委員長として大勢力となり、21才の若造でしたが私が団体交渉責任者となって担当にもなり、新学制に基づく戦後教育職員の新体制を作り上げました。

麻生 私は西岡武夫さんが文部大臣の時に文部政務次官でした。

大沼 その時期は麻生大臣のご祖父様の



麻生 太郎氏

吉田総理の全盛期でもありましたね。

麻生 吉田氏は、敗戦になって公職追放の

前に帝国憲法で第一次内閣を組閣しています。帝国憲法下、鳩山一郎さんがパージになって大命降下で吉田氏が組閣にあたりました。その後、憲法が改正されそれに基づいた選挙で当選しないと、内閣総理大臣にならないというルールが変わったんです。それまでは勅命で陸軍大将も総理大臣になっていましたからね。大命降下が終わって第1回の昭和22（1947）年の総選挙で負けるんです。その後片山内閣、芦田内閣と続きましたが、昭和電工事件で倒れ

昭和23年に第二次吉田内閣が発足しました。

大沼 私が役人になった時、吉田さんが総理だったのでその印象がすごく強いんです。ステッキをうって絶対的なところがあって、世俗離れた風で、一種の神様みたいな存在でした。それから、弟子の池田勇人さん、佐藤栄作さんまでが吉田内閣の延長の様でした。そういう意味では、おそらく日本の総理大臣の中では最も有名な人ではないですかね。

麻生 そうかもしれませんね。昭和24年の総選挙まで、第二次吉田内閣は少数

与党内閣でしたが、佐藤氏や池田氏らを育てました。いわゆる吉田学校ですよ。

うちは右翼や左翼からビストルで撃ち込まれたりするんじゃないかという大変な時代でした。

大沼 私は昭和3（1928）年生まれなので、昭和24年は21歳になった年です。

麻生 私はひとまわり下の辰年です。岸信介さんは昭和35（1960）年、安保改定の時によく来ておられました。カムフラージュに孫の私を連れて行つて、吉田と岸はつそり会っていましたよ。やたら岸さんの背中を吉田が押していたのがすごく印象に残っています。随分面白い時代でしたね。

松野頼三氏が大磯に来て「こんな軍事力を放棄したようなことで誰が日本を守るんだ」っておっしゃった時、「番犬」って思え。エサ代向こう持ち」と吉田が返しその一言で引き下がったんです。まあ何とか70年持ちましたが、やっぱりこれは是正しないといけない時期に来ているんじゃないですかね。

農地解放

戦後日本を決定づけた

大沼 昭和24年当時は、まだインフレーションが進行していました。しかし次第に落ち着いて、戦後教育制に基づいて新教員給与制度を進めることになり、担当官として日教組に加え、新しくできた国大協、高

校校長会、中学校校長会、小学校校長会などの団体の責任者と意見を交わすようになって、私も文教関係の専門家のような立場になったため、広い人脈を得ることができました。それが私学に広がり、私学とも関係を持つようになり今日に至るのです。

麻生 当時は坂田道太氏ですか？

大沼 いえ、坂田先生は昭和24年頃に議員ですから、大臣は天野貞祐さんで、次官は鈴木亨弘さんです。

麻生 鈴木さん、懐かしいなあ、名前を知っている人なんて、もういませんよね。

大沼 私にとつて忘れられない方々は、大蔵省文部担当主計官の鳩山さんと相澤さんです。

麻生 相澤英之氏ですか。

大沼 はい、外務大臣になられた鳩山威一郎さんと、永く国会議員と活躍された相澤英之さんです。新しい給与制度を作ると予算がいります。そんな関係でよく相談に行き、またご指導も頂きました。

麻生 相澤氏は毎週木曜日に私の派閥の例会にも出席していますが、こころで98歳、元気ですよ。

大沼 あの頃は、今では考えられませんが重要な仕事に携わっていましたね。膨大な仕事を、年齢を超えてそれを1人で背負っていました。

麻生 あの頃は国の体制をそっくり創り変える話ですからね。

大沼 体制の作り替えと言えば、人事院もその一つです。GHQが日本の官僚制度を改革するため、国家公務員法を改正し、実施部隊として人事院を作ったのです。その第一回の国家公務員試験に合格して、人事院の一期生になったのです。その時の入省に当たって、私達にGHQのフーパー公務員部長が講演されました。今でも耳に残っている言葉は、「日本の民主主義を進めるに際して障害となるものが5つあった。1つは軍閥、2つは財閥、3つは地主層、4

つは学閥、5つは官僚閥である。1つ目から4つ目までは改革した。最後は、一番厄介な官僚閥の改革だけになっている。」

麻生 内務省解体、ですね。

大沼 「これを海に捨てたい衝動に駆られるが、これを捨てると日本の機能が止まるので、諸君をここに集めてアメリカ行政学、人事行政について研修することにした。」とそれから3カ月間、日光の田母沢の御用邸に缶詰めになって、英文の本を翻訳して、ガリ版を刷って、御用邸の庭や東大の植物園を使って、200名の研修が行なわれましたが、若かったこともあって、今は楽しい

思い出となっています。

麻生 ほお。田母沢の御用邸ですか。今の天皇陛下が皇太子殿下の時に疎開しておられましたね。

大沼 大正天皇の御用邸でしたが、進駐軍がその時だけ押さえて3カ月の研修を行なったのです。GHQの下で日本の官僚改革をするという強い意志があったにも関わらず、私達が霞が関に来て努力しましたが、改革など何もできない程強固なものでした。

麻生 何が一番の壁でしたか？

大沼 官僚制度における基本的な考え方の違いでした。

麻生 財閥解体に最後まで反対したのは岩崎系と言われていますが、解体は意外に早かったですね。また、農地解放ができたかできないかで、共産党の勢いが衰えたかどうか変わるわけですが、フィリピンが難しいのは、それがいまだにできないからかもしれないですね。

大沼 学閥は大したことないのです。日本の戦後を決定づけたのは、やはり農地改革でしょう。明治に廃藩置県も戦後最大の土地改革も無血でできました。それで何が生まれたかと言うと日教組です。小学校や中学校の先生は、大体地方の地主の子供ですから、それが土地を全部取り上げられたのは、本音では面白くないわけですよ。

麻生 なるほど、それで日教組に流れて行くんですね。

大沼 です。それから日教組は本当の左派ではなく、心情的左派だと思います。

麻生 その典型が興石東氏ですが、最初に日の丸と君が代を正式に認めた教組が山梨県教組だったはずですよ。

大沼 あの時、後に社会党を牛耳る人達が若い執行役員としていたわけです。辻原弘一さん、横枝元文さん、などなどです。

世界中が認める

ファッションの学府に

麻生 大沼さんが役人として尽力された戦後の話に興味があります。学校経営でこれだけ成功したのは、大沼さんの経営手腕によるところが大きいと思います。振り返って見て、いかがですか？

大沼 役人時代に戦後の国公立大学の教職員給与体系を作った関係で、その後、早稲田や青山学院など、多くの私学関係者が私を頼って相談にきていました。その中の1つが、並木学園で緑もゆかりもない学校でした。来て驚いたのは、女性が中心になって活躍していたことです。戦前は女性で大学に入っている人は誰もいませんでした。大学が入学させなかったため、裁縫女学校は女性の高等教育機関の1つとして存在して



いたのです。教育界では揶揄の対象というか、あまり高い評価ではありませんでした。そこで何とかしなければ、と思っていたところ、たまたまここに招聘されたので、2つのことを始めました。1つはこうした各種学校の地位をどうやって上げていくか、もう1つは、女性の活躍の場として、学校の地位を社会に認めさせるにはどうしたらいいか。それにはこの学校に、どうしても大学を併設しなければと考えました。そうすると、信用も文化服装学院の地位も上がります。この2つを念頭にやってきました。

麻生 コーネルなど、いわゆるアイビー・

リーグには、レストラン学科とかホテル学科などがある大学もありますが、日本の国立大学にはないですね。立教大学には観光学科がありましたが、服装とかファッションなどはあまりないようです。

大沼 ファッションを学問の中に学術として認めさせようと、昭和25（1950）年創立の文化女子短期大学を体系化し、昭和39（1964）年に四年制の文化女子大学（現、文化学園大学）を設置しました。それからすぐ大学院（修士課程及び博士課程）に被服学専攻を置いて、さらに、ファッション分野では日本初の専門職大学院であ

る「文化ファッション大学院大学」を置いて、急テンポで進めて行きました。この大学院大学はファッションの職業大学のようなもので、世界中の大学を出た人がやって来ます。約8割が外国の大学からです。

麻生 授業は英語ですか？

大沼 総て日本語です。留学生は現在1700人ほど在籍しており、徹底して日本語を覚えてもらいます。日本に来ているのですから、日本語に対応できるようにしてもらいたい。文化服装学院、文化学園大学、そして文化ファッション大学院大学へ入ります。

麻生 ユシノジユンコさん、ヒロコさん、高

田賢三さん他多くの有名デザイナーが世界に出ていきますから、日本語であってもデザインを学びたいということなんでしょうね。

大沼 最も大事にしたのは、外国からどれくらい立派な人を日本の学校に呼べる力があるか、それを競わないといけません。日本人がハーバードへ入って優秀だったが、最近では中国人や韓国人に負けている。これが大変だと言っていますが、何を言っているんですか、東大がやらなければならぬのは、世界中から優秀な人を東大に来させることですよ。ファッションに関しては、世界中からこの学校に呼べる力を持つるようになりました。そのために服飾博物館や、

リソースセンター、ファッションに関しては日本一の図書館を作り、今世界中が認めるようになって、世界のトップクラスの学校になっています。世界中から一流の専門大学を出た人がここに入ってきます。例えば、フィンランドから英国のファッション大学セントマーチンズの服装デザイン科を卒業して、この大学院大学に入ってきて、そして就職はカナダという学生がいます。

麻生 ここで、日本語で勉強して、ですか。大沼 そうです。

近代日本は

繊維産業が支えた

大沼 もう1つ、江戸時代から日本は組織的な社会であり、着物は極めて合理的な作りです。鯨尺で身幅を反物4枚重ねれば身頃になります。

麻生 平面裁断の極地ですよね。

大沼 平面裁断というのは非常に普遍的で、和服を作る技術で洋服が作れるようになることを学校教育として行なったので、洋服が物凄い勢いで普及するわけです。日本は洋装化に成功した最初の国で、日本人が着たから韓国人も中国人も、そして世界中に広がって、アフリカまで普及した、その根っこは総て日本です。海外では、学校でやるという習慣がなく、全部アトリエです。デザイナーのカルダンやシャネルもア



出迎えの学生達と共に

トリエで、フランスもイタリアも同様に徒弟的に養成をします。このように組織化されたファッション教育の学校というのは、世界にはあまりありません。

麻生 パリが発祥で、日本の仁野覚さんが代表になったエスモードという会社がありますね。彼もエスモードがあれだけになった最大の理由は、「学校にしたことだ」と言っていました。

大沼 日本では全部学校教育で、しかも小学校、中学校の教科書にまで入れるわけです。日本は元々、江戸時代でも平安時代のファッションでも、世界の最先端ですよ。例えば、一条天皇、藤原道長の時代に紫式部が出てきて、その時代の十二単や衣冠束帯などは大変なファッションですよ。それと江戸時代の小袖ですが、元禄に流行して文化・文政になって完成するんですが、今見ても「その時代の世界一」と言えます。技術的に織も染も冠たるものを持っていましたね。明治になると機械も開発され、富岡製糸場が生まれ、日本でも産業が盛んになりました。近代国家を創る明治政府の原動力はファッションだったと思います。終戦直後最初に復興した繊維が優れた形で国の産業の中核を流れているんですね。

麻生 本当にそうですね。

大沼 産業と言えば鉄鋼や自動車が目立って、繊維産業はいつも目立たない業界で

です。それでも経済がどん底に落ちた時は繊維が経済を立て直して日本の中核になって来ました。そこへ、鉄鋼や電機、自動車産業が合流して経済が発展して来たのです。高田賢三や山本耀司などの卒業生が、国際的なデザイナーとして認められ、日本人がフランスのアトリエのチーフデザイナーを担当しているケースも多くなります。ファッションと言うのは、日本人が世界の相当部分を支えていると言っても過言ではありませんし、そういう評価は国際的に非常に高いです。

麻生 重要な基礎のところですね。

大沼 最初は短大でスタートして、四年制の大学、修士課程、博士課程を作り、ファッション大学院大学も創りました。それも世界中の大学を出た人が大学院レベルでファッションを学ぶという点では、おそらく世界で一つしかないのではないかと思いますし、こんな学校は日本にはありませんが、なぜか軽く見られています。この学校の評価と言えば、残念ですが、建物が立派だという位のことです。しかし、ファッションの学校の理事長が日本私立大学協会の会長を20年やっていること自体が、今まではあり得なかったんです。

麻生 今、経済財政諮問会議で、レストランやホテルの人材育成をする大学や大学院を認めてほしいという提案に対して、こ

れがすごい抵抗に当たっているんですよ。

大沼 どうしてですか？

麻生 文科省としてはきつと「レストラン従業員は大学？」っていう感覚です。

大沼 それでは駄目です。

産官学の連携で

才能と社会をつなぐ

麻生 日本私立大学協会会長として、これからの日本の教育についてお聞かせ下さい。

大沼 大いにバックアップしていきたいと考えています。経産行政としても教育行政としても、繊維産業という多くの人が携わっている大事な産業に、多少陽を当ててファインナスをどうするか、大きな意味で配慮頂きたいと思います。その中で一番大切なのは、博士号を取ろうと何を取ろうと、学校を出ただけでは一人前にはなれませんので、卒業後さまざまな産業界につながるインキュベーション、いわゆる「橋渡し」が必要だと思っています。起業家を作るとか、新しい独立したデザイナーを生んでいくとか、これはある程度資本を投下しないといけないんですけど。

麻生 確かにうなぐ所が難しいですね。

大沼 渋谷区文化総合センター大和田と言うプラネタリウムがある建物の10階と11階に、「文化ファッションインキュベーション」という施設を作つて、卒業生が独立する準備のためのセンターとして、相当な赤字を抱えながら支援をしています。ある種の公のレベルでもできるように、それを支えられる産業にならないといけないのかなと思います。

麻生 うまく人をつなげることを考えないと、いつも思っています。学生が考えたものを実際の会社に行くとなると、アイデアはいけど経理や営業が全然わからないとなります。そこで地元の会社から人を貸したりとかね。うまくつなげる必要があります。

大沼 大学と業界が結びついて産学連携をうまくやって、そこに官も入ってもらえばいいですね。産官学連携をきちんとしていかなないと、日本は立ち直ることができないんじゃないかと思っています。例えばアメリカのニューヨーク州立大学のFIT (Fashion Institute of Technology / ファッション工科大学) を見ると分かりますが、ニューヨークのセブンスアベニューという所に繊維会社、いわゆるパレルメーカーがあつて、それらが集まって作っているんです。その資金の3分の1を州が、3分の1を産業界が、そして残りの3分の1が学生の個人負担です。アメリカでは、大体3分の1原則というのが貫かれていて、寄付もあります。ところが、化学園は私が理事になって60年経ちます

が、私が理事になった当時、まず産業界からの寄付金はゼロ、政府からの補助金もゼロでした。そうすると、新宿のど真ん中にこれだけの土地にこれだけの施設を造るのに、どこが出資したのか、フランスを始めヨーロッパの非常に大きな関心事になるわけですね。そして「どうしてこんなに立派な施設ができたのか」を調査に来るんですよ。そこで、教職員の方で爪に火を灯して、小さいところから少しずつ100年かかってこまめやった、と言うと「そんな馬鹿な」とおっしゃいます。

麻生 それはそうでしょうね。

大沼 資本金がなくて、こまめに来るなんて手品を見ているみたいだ、と言いますね。こまめ完全に民間人としてやっていますからね。日本という国は、全体的に保護者が教育熱心なので学校にはお金を払います。そういう風習と私学が結びついてきたと言えます。一番訴えたいのは、戦後の日本の教育は東大も京大もありますが、国立大学が支えたのではなく、ベビーブームが押し寄せてきた時、その後の平成4年、5年のブームでも受け入れたのは私学なのです。国立大学は創立から今日まで約10万人しか入れていません。財務省が日本の教育に使っているのはGDPの約0.5%で、これは先進国では最低です。では最低でなぜできたのか、総て私立学校がその財産を提供し

ているからです。国からの補助をやったところは立派で、自力で努力した学校は潰れるかもしれないとか、地方の活性化にも支援がないなどの傾向にあります。私学を使う教育が財務省にとつて最も安い手段であるわけです。

麻生 それはそうですね。

大沼 僅かな資金でできることを、わざわざ国立でやったら膨大になります。国費の有効な使い方としては、私学に向けられ何でもできると思えるのではないかと思います。もう、私学の地盤は作りました。私学の地盤がなぜ日本でできたかと言うと、それは日本の経済が発展して、インフレが起き、スラックに事件があつたからです。それがないと日本の私学は成り立ちません。石油ショックがあつて一気に賃金が上がって、土地も上がりましたね。(麻生 そう、地価がドンと上がりましたね。)

大沼 インフレや、オリンピックなどさまざまなことが段階的に起きて、それに便乗して私学は膨らんできました。でも、これからもうそんなチャンスはないでしょう。昭和1桁の時代は新生児が180万人生まれましたが、今はもう人口の増加もなく100万人を割つて、学生も少なくなつて、そのしわ寄せが全部私学に来ているのが実情です。

麻生 一つ、法的に言えばやはり憲法の問題です。公の支配に属しない教育事業への支出というのは憲法違反となっています。私学助成は公の支配に属するという解釈で合憲になっていますが、私学に対する支援を憲法でどう位置付けるか、考えておかないとも難しいですね。

大沼 安倍総理がおっしゃるように、あれは日本を強くするために作成したもので、戦後のGHQの置き土産ですからね。

麻生 そうです。はつきりしていますよ。

大沼 彼らにとって日本の宗教は異教です。日本では神宮やお寺に国はびた一文出していませんが、同じ敗戦国のドイツは税金を取って、教会の復興からドイツの復興が始まったわけです。同じ占領区になりながら、要するにキリスト教だから正しく、日本の仏教と神道は駄目だということに正当化するために、憲法89条は作られているんです。

麻生 皆憲法9条の話かもしれませんが、89条が大きいんですよ。

大沼 あれを直さないとね、しかし解釈で乗り切つて来ていると思つていいんです。

麻生 今は解釈ですね。そう思います。

二大政党ではなく

一大政党での政権交代

大沼 今は政治が混沌としています。

為政者として考える我が国のあるべき姿について、どのようにお考えですか。

麻生 学生の時、基本的には「二大政党制によって政権交代が起こる」のが、いい民主主義政治だと教わりました。ところが今、イギリス、アメリカ、フランス、これらの国々では、かつての二大政党制がうまく機能していません。二大政党制でない国も含め先進7カ国の内5カ国で、この1年半で政治リーダーが変わつています。

ちなみに、その各国の新聞の予想はあまり当たりませんでした。アメリカもイギリスもそうです。ジャーナリズムの信用が落ちたのは明確です。その中であつて、日本だけは間違いなく政権が安定しています。政権が安定しているから政策に継続性を持たせられるし、経済もうまくいくわけですね。

大沼 おっしゃるとおりです。

麻生 今まで二大政党制をよしとして細川連立、そして民主党政権と政権交代をやりましたが、全くうまく行きませんでした。それなら、自民党という大きな保守政党の中で緊張感を持ちながら「疑似政権交代」みたいなものが起きる政治体制の方が、政権はより安定するわけです。政権が安定するということは、国家が安定するということです。そのためには現在ある政策集団、つまり派閥を基本的には二大



対談後しっかりと握手するお二人

派閥とした方が、その新しい政治構造を生むためには政治学的見地からいいのではないかと思うんですね。

大沼 1920年代の生まれの私は戦前の体系で軍人まで体験して、それで戦後の復興をやつて来たから解るんですが、日本の二大政党が絶対に駄目なのは、油と水で日本の国の中に38度線を作ってしまうので、あれは二大政党とは言わないんです。

麻生 おっしゃるとおり、私もそう思います。

大沼 二大政党で政権が交代した時は、今大臣がおっしゃったとおりになりましたね。それも二大政党でなく共産党のグループの党でなく、自民党に近い党になった時

に政権交代が起きています。日本は今うまう国内に38度線を作りましたね。ドイツと朝鮮は国土が分断という環境になりましたが、日本の中には、38度線は政党間として非常にはつきりしています。

麻生 今度、民進党は共産党と組んで選挙をやろうとしています。いかがなものでしょうか。

大沼 それは駄目ですね。

麻生 話は尽きませんが、これからも健康に留意されて私学のため、文化学園のために、またまたご尽力をお願いします。

大沼 大臣もご多用のところわざわざ本校にお運び頂きまして、本当にありがとうございます。